



2026年度 第 1 四半期決算報告

2026年8月4日

日清食品ホールディングス株式会社

(証券コード：2897)

決算説明会開催日：2026年8月4日

本日のポイント

2026年度 Q1実績

- 売上収益は 1,947億円（前期比+10.0%）、既存事業コア営業利益は 197億円（同+13.5%）と増収増益
中東影響によるコスト増をカバーし、3 事業とも増収増益で着地
- 国内即席めん事業：増収増益
 - 価格改定（日清食品 4月～・明星食品 6月～）は計画通り浸透
- 国内非即席めん事業：増収増益
 - 26年2月末から連結子会社化したセリア・ロイルが貢献
- 海外事業：増収増益
 - 事業成長に加え、円安（USDJPY 前期Q1 144.59、今期Q1 159.49）も寄与
 - 前年実施の価格改定効果や堅調なブラジル・中国・欧州持分法適用会社が増益を牽引

中東情勢 影響及び 打ち返し策

- コスト増影響：Q1 18億円まで抑制（当初見込25億円前後）、Q2 40～50億円を見込む
- 価格改定：ヨーク 7月～、チルド・冷凍 9月～、シスコ 11月～
- コスト削減：サプライチェーン見直し等を順次実施

つくばみらい 工場(仮称) 建設

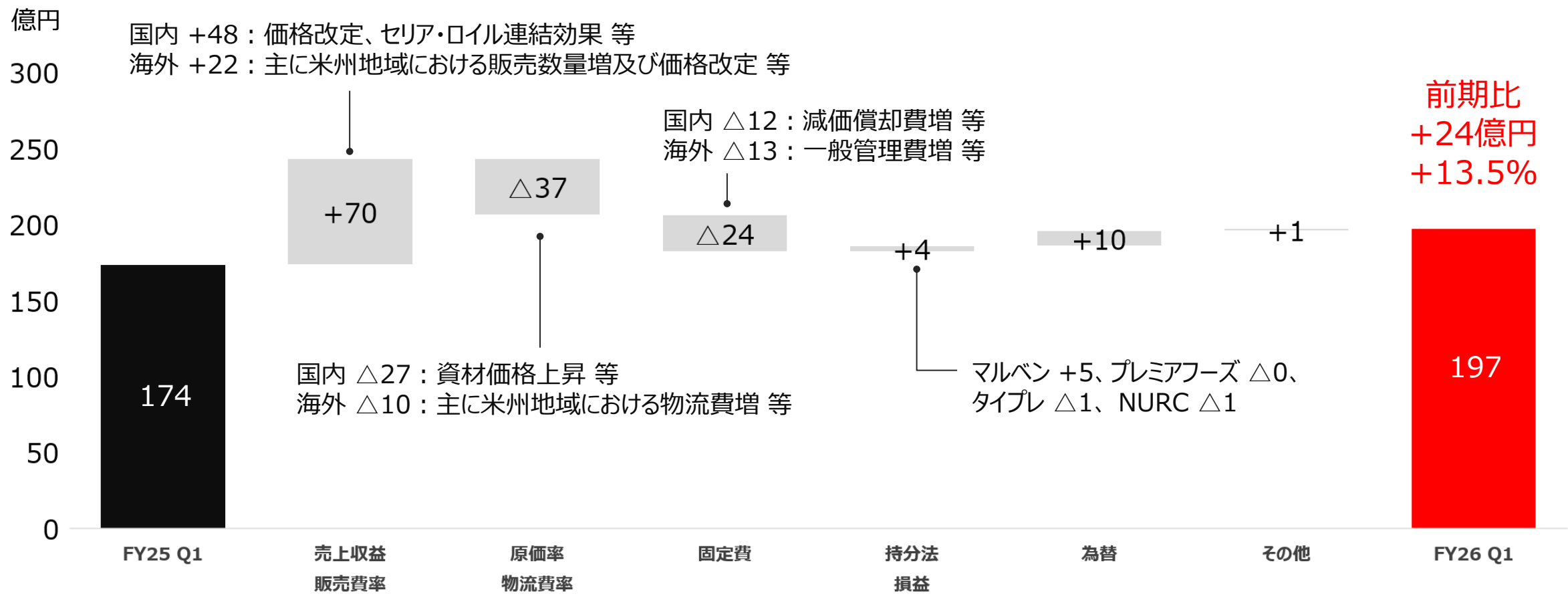
- 茨城県つくばみらい市にカップヌードル特化型工場の新設を決定、2029年の稼働開始を見込む
- 「高度化」と「選択と集中」により、投資額を約700億円まで抑え、資本効率を徹底追求

2026年度 第1四半期実績

2026年度 Q1連結決算サマリー

単位：億円	決算開示 ベース	前期比	増減率	為替一定 ベース	前期比	増減率	前期
売上収益	1,947	+ 176	+ 10.0%	1,854	+ 84	+ 4.7%	1,770
既存事業コア営業利益	197	+ 24	+ 13.5%	187	+ 14	+ 8.0%	174
営業利益	180	+ 21	+ 13.4%	170	+ 12	+ 7.6%	158
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	133	+ 21	+ 18.3%	124	+ 12	+ 10.4%	112
既存事業コア営業利益率	10.1%	+ 0.3pt	-	10.1%	+ 0.3pt	-	9.8%
営業利益率	9.2%	+ 0.3pt	-	9.2%	+ 0.2pt	-	9.0%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益率	6.8%	+ 0.5pt	-	6.7%	+ 0.3pt	-	6.3%

既存事業コア営業利益の増減要因



* 細目は前期為替一定ベース ** その他事業セグメント、その他連結調整及びグループ関連費用のコア営業利益増減は「その他」に含めて表示

Q1は約18億円のコスト増で着地、Q2は40～50億円のコスト増を想定

(億円)	Q1実績	Q2見込
原材料・包材	14	36～40
ユーティリティ	1	2～5
物流他	3	2～5
合計	18	40～50

現時点のステータスと打ち返し策

- 現時点では生産・販売活動への重大な支障なく、今後も見込んでいない
- 原油価格・為替・物流動向等の不確実性は依然高い
- コスト削減努力に加え、必要に応じて価格改定を実施

(Q2見込前提)

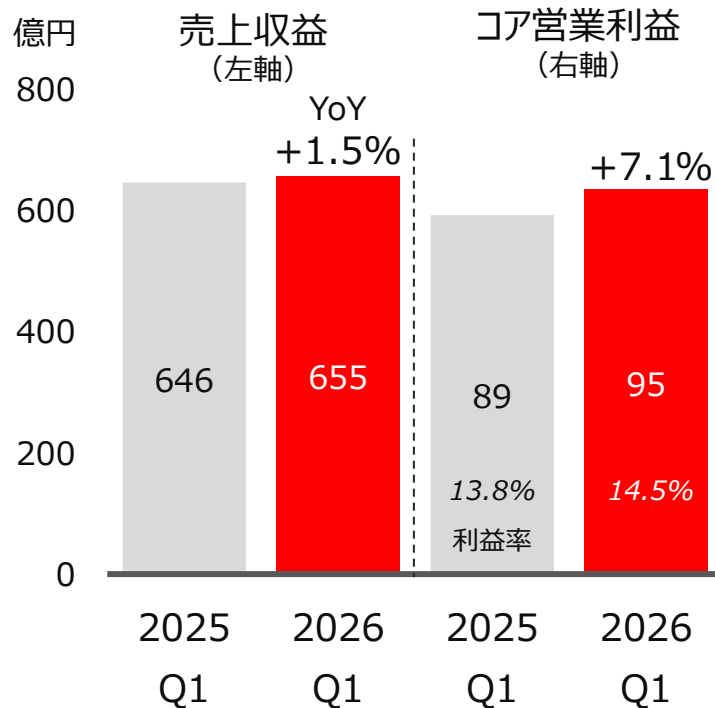
原油 USD/bbl	65～85
為替 USD/JPY	155～165

セグメント別 決算サマリー

売上収益は、即席めん事業2社の価格改定、セリア・ロイルの貢献、好調な中国・ブラジル等により、3事業で増収
 コア営業利益は、欧州持分法適用会社の貢献、費用の期ずれもあり、中東影響を吸収して3事業で増益

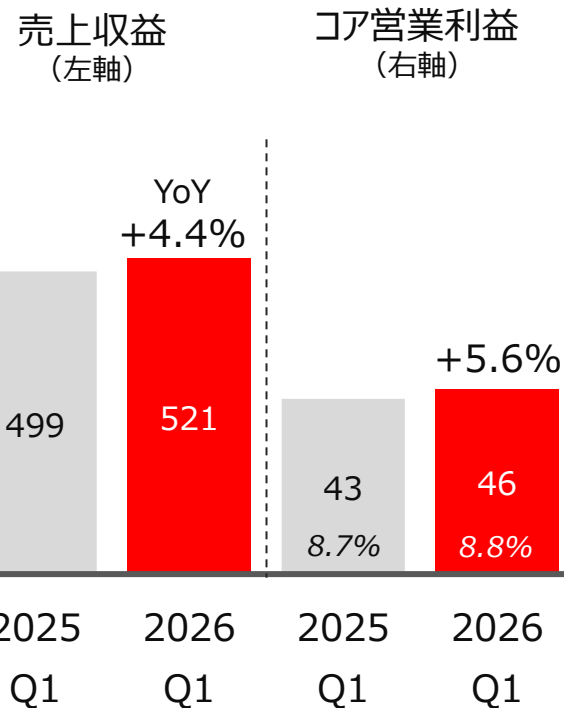
国内即席めん事業

日清食品・明星食品ともに**増収**。
 日清食品では価格改定効果などで**増益**。
 明星食品はコスト増をカバーできず**減益**



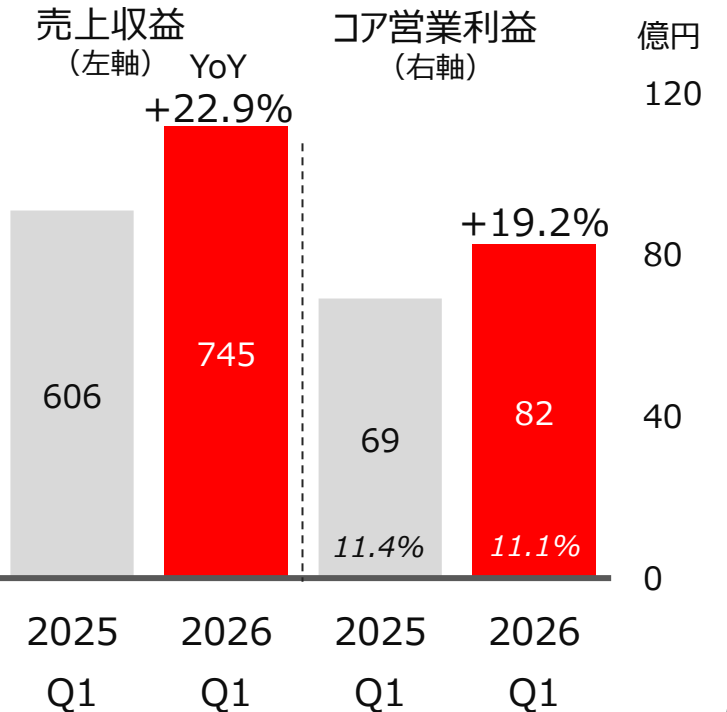
国内非即席めん事業

セリア・ロイルの連結効果、日清チルドや湖池屋の堅調が貢献し、日清ヨークの数量減や中東影響を吸収して**増収・増益**



海外事業

全地域で**増収**。主に好調なブラジル・中国、欧州の持分法適用会社2社の貢献もあり**増益**



セグメント別 売上収益実績

単位：億円	決算開示 ベース	前期比	増減率	為替一定 ベース	前期比	増減率	前期
日清食品	532	+ 2	+ 0.4%	532	+ 2	+ 0.4%	529
明星食品	124	+ 7	+ 6.2%	124	+ 7	+ 6.2%	116
国内即席めん事業 計	655	+ 10	+ 1.5%	655	+ 10	+ 1.5%	646
低温・飲料事業	259	△ 2	△ 0.8%	259	△ 2	△ 0.8%	262
菓子事業	262	+ 24	+ 10.2%	262	+ 24	+ 10.2%	237
国内非即席めん事業 計	521	+ 22	+ 4.4%	521	+ 22	+ 4.4%	499
国内事業 計 ^{**}	1,176	+ 31	+ 2.7%	1,176	+ 31	+ 2.7%	1,145
北中米地域 ^{**}	256	+ 52	+ 25.2%	226	+ 22	+ 10.6%	205
南米地域 ^{**}	169	+ 40	+ 30.9%	137	+ 7	+ 5.8%	129
米州地域 計	425	+ 91	+ 27.4%	363	+ 29	+ 8.7%	334
中国地域 [*]	190	+ 23	+ 13.8%	173	+ 6	+ 3.5%	167
アジア地域	63	+ 13	+ 25.3%	59	+ 9	+ 17.0%	51
EMEA地域	67	+ 11	+ 20.6%	58	+ 3	+ 4.9%	55
海外事業 計	745	+ 139	+ 22.9%	653	+ 46	+ 7.7%	606
国内・海外事業 計	1,921	+ 170	+ 9.7%	1,829	+ 78	+ 4.4%	1,751
その他事業 ^{**}	25	+ 6	+ 32.7%	25	+ 6	+ 32.3%	19
連結 計	1,947	+ 176	+ 10.0%	1,854	+ 84	+ 4.7%	1,770

* 中国地域の実績は、日清食品 HD の連結方針に基づく

** 当期より表示方法を変更しており、2026年3月期の数字は変更後の方法に組み替えて表示。なお、「その他事業」には新規事業も含む

セグメント別 コア営業利益実績

単位：億円	決算開示 ベース	前期比	増減率	為替一定 ベース	前期比	増減率	前期
日清食品	83	+ 7	+ 9.3%	83	+ 7	+ 9.3%	76
明星食品	12	△ 1	△ 5.7%	12	△ 1	△ 5.7%	13
国内即席めん事業 計	95	+ 6	+ 7.1%	95	+ 6	+ 7.1%	89
低温・飲料事業	25	△ 3	△ 9.2%	25	△ 3	△ 9.2%	27
菓子事業	21	+ 5	+ 30.7%	21	+ 5	+ 30.7%	16
国内非即席めん事業 計	46	+ 2	+ 5.6%	46	+ 2	+ 5.6%	43
国内事業 計 **	141	+ 9	+ 6.6%	141	+ 9	+ 6.6%	132
北中米地域 **	12	△ 1	△ 4.7%	11	△ 2	△ 15.2%	13
南米地域 **	15	+ 6	+ 61.6%	12	+ 3	+ 30.5%	9
米州地域 計	27	+ 5	+ 23.2%	23	+ 1	+ 4.1%	22
中国地域 *	16	+ 4	+ 28.3%	15	+ 2	+ 16.7%	13
アジア地域	17	△ 0	△ 1.8%	16	△ 2	△ 8.8%	17
EMEA地域	22	+ 5	+ 28.3%	19	+ 2	+ 12.3%	17
海外事業 計	82	+ 13	+ 19.2%	73	+ 4	+ 5.3%	69
国内・海外事業 計	223	+ 22	+ 10.9%	214	+ 12	+ 6.1%	201
その他事業 **	5	△ 0	△ 8.0%	5	△ 0	△ 8.0%	6
その他連結調整	4	+ 5	-	4	+ 5	-	△ 1
グループ関連費用	△ 36	△ 3	-	△ 36	△ 3	-	△ 32
既存事業 計	197	+ 24	+ 13.5%	187	+ 14	+ 8.0%	174
新規事業	△ 18	△ 5	-	△ 18	△ 4	-	△ 13
連結 計	179	+ 19	+ 11.6%	170	+ 9	+ 5.9%	160
その他収支	1	+ 3	-				
IFRS営業利益 計	180	+ 21	+ 13.4%				

* 中国地域の実績は、日清食品 HD の連結方針に基づく

** 当期より表示方法を変更しており、2026年3月期の数字は変更後の方法に組み替えて表示

事業の状況

国内即席めん事業

- 日清食品は4月から、明星食品は6月から価格改定を実施。価格改定効果及び好調な主力ブランドにより、増収
- 増収効果が原材料価格上昇等のコスト増を上回り、セグメント全体で増益

単位：億円		2026年度	増減要因	
		Q1		
売上収益				
日清食品		532	カップめん	周年を迎えた「カップヌードル」、「日清のどん兵衛」、「日清焼そばU.F.O.」ブランドの主力商品が順調に推移し、2026年6月発売の「日清 北中米トリオ」など新製品が貢献
	前期比	+0.4%	袋めん	「日清焼そば」、「日清のラーメン屋さん」が堅調に推移、2026年3月発売の「辛ミョン」等が貢献も、袋めん全体では減収
明星食品		124	カップめん	「一平ちゃん夜店の焼そば」シリーズが堅調に推移し、「ぶぶか油そば」が伸長継続
	前期比	+6.2%	袋めん	4月に新発売した「明星 一平ちゃん夜店の焼そば 袋 からしマヨ付 5食パック」が貢献
計		655		
	前期比	+1.5%		
コア営業利益				
日清食品		83	+))	価格改定効果による売上収益増に伴う利益増
	前期比	+9.3%	△)	原材料価格の上昇及び減価償却費の増等
	利益率	15.6%		
明星食品		12	+))	売上増加による利益増
	前期比	△5.7%	△)	原材料価格の上昇等
	利益率	9.9%		
計		95		
	前期比	+7.1%		
	利益率	14.5%		

国内非即席めん事業 – 低温・飲料事業

- チルドはラーメン群の販売伸長により増収増益。一方、ヨークで「ピルクルミラクルケア」シリーズが低調に推移したことに加え、ヨーク・冷凍を中心とした資材・物流コスト増の影響により、事業全体では減収減益

単位：億円		2026年度		増減要因
		Q1		
売上収益				
低温・飲料事業	259	チルド	+2%	商品ラインナップを拡充した「麺の達人」「スープの達人」が好調に推移したほか、今年発売30周年を迎える「行列のできる店のラーメン」や、「つけ麺の達人」「まぜ麺の達人」といった高付加価値商品も貢献し、増収 「冷凍 日清中華」「冷凍 日清まぜ麺亭」「冷凍 日清スパ王喫茶店」シリーズが堅調に推移。売上収益は前年同期並み。 睡眠ブームのダウントレンドによる「ピルクルミラクルケア」シリーズの販売減に加え、昨秋の新製品「ピルクル免疫スタイル」「ピルクルエイジングライフ」や「十勝のむヨーグルト」リニューアルの貢献も限定的にとどまり、減収
前期比	△0.8%	冷凍	△0%	
		ヨーク	△4%	
コア営業利益				
低温・飲料事業	25	チルド	増益	増収効果により、増益
前期比	△9.2%	冷凍	減益	原材料価格や物流費の上昇等により、前年同期比で減益。
利益率	9.5%	ヨーク	減益	減収に加え、関西工場増築に伴う減価償却費の増加および原材料費・物流費の増加により、減益

国内非即席めん事業 - 菓子事業

■ 湖池屋の増収増益やセリア・ロイルの連結寄与により、菓子事業は増収増益

単位：億円		2026年度			増減要因
		Q1			
売上収益					
菓子事業		262	シスコ	+3%	「ごろグラ」シリーズ等のシリアルおよび「ココナッツサブレ」シリーズが堅調に推移し、増収
	前期比	+10.2%	ぼんち	△14%	価格改定の影響による販売数量の減少が続き、減収
			湖池屋	+2%	コーン系ブランドが好調に推移したことに加え、価格改定効果もあり、増収
			セリア・ロイル	-	「ブラックサンダーアイス」「ひとくちアイス」シリーズが好調に推移。2026年2月27日より連結子会社化し、純増
コア営業利益					
菓子事業		21	シスコ	減益	販売促進費の積極的な投入等により、減益
	前期比	+30.7%	ぼんち	増益	コメ価格や物流費率の低下等によるコスト改善により、増益
	利益率	8.1%	湖池屋	増益	馬鈴薯の歩留まり改善に加え、中部工場の稼働に伴う物流効率化により、増益
			セリア・ロイル	-	連結効果（3カ月分）により、純増

米州地域

- 北中米地域は数量増および価格改定効果もあり増収も、コスト増加に伴い減益
- ブラジルは堅調に推移し増収増益

単位：億円		2026年度	増減要因		
		Q1			
売上収益					
北中米地域		256	米国*	+22%	大手量販向け販売好調による数量増に加え、価格改定効果もあり増収（為替影響 +18億円）
	前期比	+25.2%	メキシコ	+39%	数量増加および価格改定効果もあり増収（為替影響 +11億円）
南米地域 （ブラジル）		169	数量増加および価格改定効果もあり増収（為替影響 +32億円）		
	前期比	+30.9%			
計		425			
	前期比	+27.4%			
コア営業利益					
北中米地域		12	米国**	減益	物流費等のコスト上昇やRHQ-A設立関連費用の計上もあり、減益（為替影響 +1億円）
	前期比	△4.7%			
	利益率	4.8%	メキシコ	増益	数量増加、価格改定効果により増益（為替影響 +0億円）
南米地域 （ブラジル）		15	販売数量増加や価格改定効果が各種コスト増を上回り増益（為替影響 +3億円）		
	前期比	+61.6%			
	利益率	9.0%			
計		27			
	前期比	+23.2%			
	利益率	6.5%			
* 米国日清、明星USAの合計値					
** 米国日清、明星USA、日清USAの合計値					

* 米国日清、明星USAの合計値

** 米国日清、明星USA、RHQ-Americasの合計値

中国地域

- 香港の即席めん事業が堅調に推移するとともに、大陸では販路拡大の進展に伴い主力商品の販売が伸長、増収
- 主力即席めんの販売伸長による増収効果に加え、販売構成の改善や原材料価格の低下も寄与し、増益

単位：億円		2026年度	増減要因			
		Q1				
売上収益						
中国地域	前期比	190 +13.8%	香港	他*	増収	北上消費が進む中、「合味道」や「北海道一丁」などの高価格帯商品が堅調に推移（為替影響 +7億円） 現地通貨ベース（HKドル）+5%、 数量 横ばい圏 管理ベース、非即席めん除く
			大陸		増収	内陸部への販路拡大の進展を背景に、「合味道」や「合味道BIG」などの主力商品の販売が伸長（為替影響 +10億円） 現地通貨ベース（人民元）+3%、 数量 +1桁台後半 管理ベース、非即席めん除く
コア営業利益						
中国地域	前期比 利益率	16 +28.3% 8.6%	香港	他*	減益 増益	即席めん事業が堅調だった一方、一部の非即席めん事業が伸び悩み減益（為替影響 +0億円） 即席めん事業の増収効果に加え、高価格帯商品の販売伸長、原材料価格の低下等により増益（為替影響 +1億円）

* ベトナム、台湾、韓国、豪州を含む

アジア地域

■ 各国で販売数量が増加し増収も、持分法適用会社を主因に減益

単位：億円		2026年度	増減要因			
		Q1				
売上収益			売上収益額の大きい順			
アジア地域	前期比	63	タイ	増収	(為替影響 +2.5億円)	
		+25.3%	インド	増収	(為替影響 -億円)	
			シンガポール	増収	(為替影響 +1.1億円)	
			インドネシア*	増収	(為替影響 +1.0億円)	
コア営業利益						
アジア地域	前期比 利益率 **	17	タイ	増益	(為替影響 +0.3億円)	
		△1.8%	インド	赤字	(為替影響 -億円)	
		5.1%	シンガポール	増益	(為替影響 +0.1億円)	
			インドネシア*	赤字	(為替影響 △0.1億円)	
持分法適用会社：						
		タイプレ	9億円	YoY +0.3億円、	(為替影響	+0.9億円)
		N-URC	5億円	YoY △0.5億円、	(為替影響	+0.0億円)

* マレーシア事業含む

** 利益率は持分法損益を含まない

EMEA地域

- Soba Cup BigやDemae Ramenが貢献し、一桁半ばの数量増。為替影響もあり増収
- 中東影響による原材料コストの増加、為替変動等により欧州日清は苦戦も、持分法適用会社の貢献もあり増益

単位：億円		2026年度 Q1	増減要因		
売上収益					
EMEA地域*		67	欧州日清	+20%	数量回復及び為替影響により増収
	前期比	+20.6%			(為替影響 +9億円)
コア営業利益					
EMEA地域*		22	欧州日清	赤字	(為替影響 △0億円)
	前期比	+28.3%			
	利益率**	-	持分法適用会社：		
			マルベン	8億円	YoY +6億円 (為替影響 +1億円)
			プレミアフーズ	16億円	YoY +1億円 (為替影響 +2億円)

* トルコ事業も含む
2025年11月にNISSIN FOODS TURKEY GIDA ANONİM ŞİRKETİ (トルコ日清) を設立し、トルコにおける即席めん事業を開始

** 利益率は持分法損益を含まない

日清食品

「つくばみらい工場 (仮称) 」

日清食品「つくばみらい工場（仮称）」概要

- 大消費地・首都圏に隣接し、圏央道沿いの好立地に、カップヌードル特化型工場を建設
- 新工場建設により、カップヌードルの供給リスクを長期にわたり低減するとともに、東西供給バランスを改善
- これまで培った生産技術の活用による生産効率の向上、製造時CO₂排出量の削減に取り組み環境負荷を低減

概要	
名称	日清食品株式会社 つくばみらい工場（仮称）
所在地	茨城県つくばみらい市福岡工業団地76番5
工事開始年月	2027年5月（予定）
稼働予定年月	2029年度操業開始予定
生産品種	カップ麺
敷地面積	約331,000m ²
工場延床面積	約41,000m ²
生産能力（年間）	最大5億食
設備投資額	約700億円

主な生産予定品



新工場完成イメージ及び建設予定地



圏央道沿いの好立地
首都圏へのアクセスも抜群

日清食品「つくばみらい工場（仮称）」のコンセプト

「高度化」と「選択と集中」により、資本効率を徹底追求

従来からの課題

- 安定供給体制の確立
- 特に関東工場老朽化により、長期利用が困難
- 働き手減少下での省人化・自動化が必須
- 環境負荷低減
EFC2030対応

+

新たな問題

- 建築コストの急騰
単なる更新投資では投資回収が難しい水準

解決策としての工場新設

高度化

+

選択
と
集中

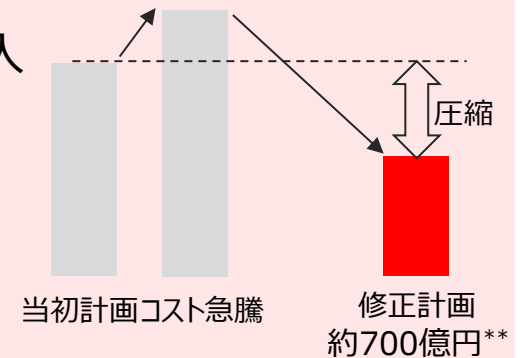
↓

ROI向上

- 関西工場で培った自動化技術を発展的に活用
- 最新設備の導入によりCO₂排出量10%*削減に挑戦

* 対現関東工場カップヌードル1食あたり

- 売上1,000億円超の主力ブランド「カップヌードル」に特化。
生産能力（年間）最大5億食
- ライン集約により、更新規模を最小化・最適化し、建築コスト急騰前の計画と比較しても**投下資本を抑制**
- 大ロット品への集中と高速ライン導入で、固定費対比の生産量最大化
- 最高水準の利益率を追求



** インフレなどにより、約700億円から追加投資（+約100億円）が発生する可能性も想定して経済性を評価

- ROIC最大化を追求
- 資本コスト（WACC）に対し、十分なEVAスプレッドを見込む

APPENDIX

2026年度 連結業績予想

減益となった2025年度をボトムに反転、Mid-single Digit成長を計画

中東情勢の影響を含まず。詳細後出

2025年度実績比 増減率

売上収益	8,600 億円	+9.1%
------	----------	-------

既存事業コア営業利益	735 億円	+4.1%、償却前では1桁台後半に相当
------------	--------	---------------------

→ 新規事業投資を、既存事業コア営業利益の5~10%で実施

営業利益	660 ~ 695 億円	+5.9% ~ +11.5%
------	--------------	----------------

親会社の株主に帰属する 当期利益	455 ~ 480 億円	+0.3% ~ +5.8%
---------------------	--------------	---------------

EPS	159 ~ 167 円/株	
-----	---------------	--

2026年度 セグメント別業績予想 中東情勢の影響を含まず

単位：億円	売上収益	前期	前期比	増減率	為替一定	コア営業利益	前期	前期比	増減率	為替一定
日清食品	2,490	2,419	+ 71	+ 2.9%	nm	340	326	+ 14	+ 4.3%	nm
明星食品	500	483	+ 17	+ 3.5%	nm	35	34	+ 2	+ 5.4%	nm
国内即席めん事業 計	2,990	2,902	+ 88	+ 3.0%	nm	375	360	+ 16	+ 4.4%	nm
低温・飲料事業	1,060	1,042	+ 18	+ 1.8%	nm	81	78	+ 3	+ 4.3%	nm
菓子事業	1,090	959	+ 131	+ 13.6%	nm	68	57	+ 11	+ 19.4%	nm
国内非即席めん事業 計	2,150	2,001	+ 149	+ 7.4%	nm	149	135	+ 14	+ 10.7%	nm
国内事業 計	5,140	4,904	+ 236	+ 4.8%	nm	524	494	+ 30	+ 6.1%	nm
北中米地域	1,170	1,044	+ 126	+ 12.1%	+ 9.2%	61	61	+ 0	+ 0.7%	△ 2.6%
南米地域	675	593	+ 82	+ 13.8%	+ 11.3%	54	45	+ 9	+ 21.3%	+ 16.8%
米州地域 計	1,845	1,637	+ 208	+ 12.7%	+ 9.9%	115	105	+ 10	+ 9.4%	+ 5.6%
中国地域	830	749	+ 81	+ 10.7%	+ 7.4%	90	90	+ 0	+ 0.5%	△ 2.8%
アジア地域	335	226	+ 109	+ 48.1%	+ 43.6%	79	70	+ 9	+ 12.9%	+ 11.5%
EMEA地域	305	271	+ 34	+ 12.6%	+ 8.9%	82	89	△ 7	△ 7.4%	△ 9.7%
海外事業 計	3,315	2,884	+ 431	+ 15.0%	+ 11.8%	366	353	+ 13	+ 3.6%	+ 0.8%
国内・海外事業 計	8,455	7,787	+ 668	+ 8.6%	+ 7.4%	890	847	+ 43	+ 5.1%	+ 3.9%
その他事業	145	94	+ 51	+ 54.3%	nm	1	△ 9	+ 10	-	nm
連結調整・グループ関係費用	-	-	-	-	-	△ 156	△ 133	△ 24	-	nm
既存事業 計	8,600	7,881	+ 719	+ 9.1%	+ 8.0%	735	706	+ 29	+ 4.1%	+ 2.8%
新規事業						△ 70 ~ △ 35	△ 69	△ 1 ~ + 34	-	nm
連結 計	8,600	7,881	+ 719	+ 9.1%	+ 8.0%	665 ~ 700	637	+ 28 ~ + 63	+ 4.4% ~ +9.9%	nm
IFRS営業利益 =コア営業利益 (Non-GAAP) -その他収支						660 ~ 695	623	+ 37 ~ +72	+ 5.9% ~ +11.5%	nm

米州地域および海外地域全体の売上収益・数量

前期比増減率

上段：現地通貨ベース売上収益、下段：数量

地域	2025年度					2026年度	
	Q1	Q2	Q3	Q4	累計	Q1	通期予想
米国	△24% △20%台	△8% △1桁台前半	+5% +1桁台後半	△4% △1桁台後半	△8% △1桁台半ば	+10% +1桁台後半	+1桁台後半 横這い圏
メキシコ	+13% +1桁台前半	△6% △1桁台後半	△5% △1桁台後半	△1% △1桁台半ば	+0% △1桁台半ば	+12% +10%台	+10%台 +1桁台半ば
ブラジル	+4% △1桁台半ば	+8% 横這い圏	+5% +1桁台前半	△6% △1桁台後半	+3% △1桁台前半	+6% +1桁台前半	+11% +1桁台半ば
海外全体	△5% △1桁台後半	△1% △1桁台前半	+1% +1桁台前半	△1% △1桁台半ば	△1% △1桁台前半	+8% +1桁台半ば	+15% +1桁台前半

主な価格改定推移（国内）

2026年8月4日時点

事業		2019-21年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			2026年度		
即席めん	日清食品	19年6月 4~8%			6月 5~12%			6月 10~13%					4月 カップライス 11%				4月 5~11%		
	明星食品	19年6月 3~7%			6月 6~12%			6月 9~12%									6月 6~10%		
低温・飲料	日清食品チルド	19年4月 3~9%			22年3月 6~12%			3月 7~17%					3月 5~12%				9月 6~11%		
	日清食品冷凍				22年3月 6~12%			3月 6~20%	9月 5~20%		9月 5%	3月 4~8%	9月 5~10%	3月 4~5%			9月 5~21%		
	日清ヨーク				6月 5~14%			6月末 6~25%					6月 4~25%				7月 3~8%		
菓子	日清シスコ				6月~1月 価格改定・内容量変更			9月 内容量変更	11月 価格改定	9月 価格改定 ・内容量変更	3月 内容量変更	9月 内容量変更	11月 価格改定 ・内容量変更	3月 内容量変更			11月 5~17%		
	ぼんち				4月 価格改定・内容量変更	9~11月 価格改定・内容量変更		8~9月 価格改定・内容量変更		8~9月 価格改定・内容量変更	6月 9月 約8% 価格改定 ・内容量変更	3月 価格改定 ・内容量変更							
	湖池屋	19年6~7月 7~9%	22年2月~11月 価格改定・内容量変更		3~4月 3~10%			7月 価格改定 ・内容量変更		10月 価格改定 ・内容量変更	2月 3~11%	7月 内容量変更	10月 3~7%	2月 4~11%	7月 3~8%	8月 3~8%	10月 5~8%		
	セリア・ロイル																		

主な価格改定推移（海外）

2026年8月4日時点

地域		2019-21年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			2026年度		
米州地域	米国	●	●	●	●									●					
		19年4月 袋・カップ	21年5月 袋・カップ	22年1月 袋・カップ	8月 平均36% 袋・カップ									10月 袋・カップ					
	ブラジル		→	●				●			●	●		●					
			段階的実施	5月 袋・カップ				6月 袋・カップ			7月 袋のみ	2月 袋・カップ		1月 袋・カップ					
他の海外地域	メキシコ * チャンネル毎に実施	→	●	●	●						●		●	●					
		段階的実施	5~6月	3月	10月						9~10月		5月 一部チャンネル	10月 一部チャンネル					
	中国地域	●	●	●	●														
		19年7月 カップ, 香港	22年3月 袋・カップ 大陸	4月 袋・カップ 香港	9月 袋, 香港														
	アジア地域	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
			一部地域 で実施		各地域 で実施			一部地域 で実施			一部地域 で実施		一部地域 で実施				一部地域 で実施		
	EMEA地域	→	●	●	●												●		
		段階的に実施	1~4月 袋・カップ	10月~ 袋・カップ													4月 一部地域で実施		

本資料に掲載しております当社グループの計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場的大幅な変動」他、様々なリスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきください。

また、本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさっていただきますようお願い申し上げます。

- このプレゼンテーション資料は、PDF形式で当社ウェブサイト「決算短信・補足資料・決算説明会関連資料」に掲載しています
<https://www.nissin.com/jp/ir/library/>
- この資料の金額は、千円単位で算出し、億円単位未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等が一致しない場合があります
- 当該資料の決算期は原則として、20YY年4月1日～20YY年3月31日を「20YY年度」または「YY年度」とします
- 海外の関連会社の収益・費用は累計期間の期中平均為替レートを適用しています
- 中国地域の実績は、日清食品HDの連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。
また、中国地域の戦略、それに基づく各種目標ならびに業績予想は日清食品HDが独自に設定したものです



日清食品ホールディングス株式会社